

27年3月議会

防災無線の設置が進まない理由

質問

皆さん、おはようございます。吹田新選会、足立将一、個人質問をいたします。

昨日で東日本大震災から4年でございます。犠牲になられた方々の御冥福を心よりお祈り申し上げます。

私たちは、あの深い悲しみを決して忘れてはなりません。そして、あの経験をもとに、私たち政治家や行政は、国民、市民の命を守り、少しでも悲しみを減らすことができるよう、そして、笑顔をふやすことができるように、日々力を尽くさなければなりません。

今回はまず、防災について質問いたします。

私は石巻や南三陸、女川町などを視察させていただき、特に、津波の被害の甚大な地では、そこにまちがあって人が生活していたとは想像もできないような状況を目の当たりにしました。

自然の強大過ぎる力の前では防ごうとすることももちろん大事ですが、逃げる、その意識を皆が持つことが何より大切だと感じるようになりました。

また、昨年、長野の地震では災害時における隣近所の助け合いの力と、その大切さを改めて痛感いたしました。

我が市は安心安全の都市（まち）づくり宣言を行っております。吹田に住む市民の方々が日常生活でももちろんのこと、いざ災害が発生した際にも安心できる環境を、これからも市民と協働してつくっていくことが肝要でございます。

4年前と今の吹田の災害への備えを比べてみると、自主防災組織が積極的に設立され、各地に備品が備えられ、防災リーダーの育成や津波洪水避難ビルの協定、地域防災計画の見直しなどが危機管理室の御努力のもと進んでおり、感謝申し上げる次第でございます。今後も他部署と連携し、市民意識の醸成や防災をきっかけとした地域コミュニティのつながり強化に御尽力いただけますと幸いです。

今回は、安心、安全の観点からハード面の整備について伺います。まず、防災無線拡声機についてです。

他の議員も御提案されていますが、全く進みません。この進まない理由ですが、市長が予算をつけないから進まないのか、そもそも危機管理室として必要性を感じていないのか、どちらなのでしょう。

これまでの答弁ではテレビやラジオ、エリアメールなどの活用という話が出ていますが、深夜にゲリラ豪雨で水害が発生した場合の情報伝達手段についてはどう考えるのか。情報提供については市民が自主的に情報をとりにいくことを期待されているようですが、それをしない市民が被害に遭えば、自己責任であるというふうに考えられるのでしょうか。各部署の考えをお聞かせください。

川上勝己危機管理監

本市の屋外拡声機につきましては、広域避難地を中心に16カ所に設置をしているところでございます。平成25年度に現況によるシミュレーションを行ったところ、設置場所や可聴範囲など課題が明らかになりました。

現在、サイレン機能も利用し、市民の方に注意喚起を行い、素早い避難行動をとっていただくように、屋外拡声機の既存分の改造や新規配置も含めて計画化を行い、平成27年度予算化に向け、関係機関と調整を行っているところでございます。

また、市民の皆様に対して防災講座等あらゆる機会を活用して既存の各種情報収集ツールの紹介を行い、効率的かつ効果的な情報収集手段の周知を進めてまいっているところでございます。これは素早い初動による自助の大切さ、また情報共有による共助の促進も目指しているところでございます。

以上でございます。

意見

ありがとうございます。ついに整備に向けて計画し、予算化に向けて動かれているということですね。

予算的に全地域とまではいかないまでも、まず、水害の危険性が高い地域や、倒壊可能性の高い建物の密集地などに優先してつけていただきますようお願いいたします。

この点については命にかかわる問題です。あのとき設置しておいてよかった、そう思えるように御尽力いただきますように、よろしく願いいたします。